たすけ愛 ふくろう清田だより

創刊号

発行所
ふくろう清田事務局
札幌市清田区平岡８条
３丁目１０-１４
TEL 889-2960

NPO法人
設立記念
特別寄稿Ⅰ

ふくろうのこれから

北星学園大学社会福祉学部
教授　杉岡　直人

どんなことにも始めと終わりがあるといいますが、始めも終わりもないのが私たちの地域の支えあいであり、助け合いです。ともに生活していれば、自然に声をかけて絆ができていく、それがつながって地域の生活にみられる安心と安全をつくり出していました。

けれども、現在の身の回りでは、声をかける人が必要になり、サロンのような居場所もあえてつくらないとならない社会となっています。誰かが何とかしてくれるということもなくなっています。

実は、それは間違いで、お互いが何かをしようという気持ちを行動に移すことが必要になっています。そのためには、出発点となる基地が必要で、ふくろうの活動は地域の皆さんのより所となりつつあります。少しずつ会員が増えて担い手と利用者が楽しく暮らせる日常が実現されていくといえます。

二十年以上前に菊水に住む一人暮らしの高齢者に話を聞きました。一年に一度子どもが東京から遊びにくるのが生き甲斐で、周りに友人はいない病気持ちの方でした。

通院を考えて病院のそばに住んでいると話していました。知り合いはいなくても子どもがきてくれるという期待だけで生きていけることを知りました。誰かが声をかけてくれるという気持ちを持てるように社会をつくることが幸せな毎日をつくり出します。あの高齢者も地域に出かける居場所があれば、きっと普段の生活も違ったものになったと思います。

ふくろうのこれからは、私たちすべてのこれからを意識させるものになっているといえます。

今後ともよろしくお願いいたします。

（二〇一〇年十一月特別寄稿文再掲載をご承認戴きました。）

NPO法人になりました！

「たすけ愛ふくろう清田」は、札幌市長より一月十五日付で、NPO法人認証決定通知を受けました。ただ今、法務局で法人登記の手続き等を進めております。

二月四日には、「地域ボランティア学習会」を開催、十一日には、清田区全域に同封のような新聞チラシ折込をいたします。

これを一つの区切りとしてさらに飛躍するべく、ご一緒に力を合わせて活動を進めて行きたいと願っております。これからもよろしくお願いいたします。

「たすけ愛ふくろう清田」の活動は
地域の皆さんのより所
と、なりつつあります

＝利用会員の声＝

公的支援のはざまで・・

清田区平岡　吉﨑 友祐 の 母

三年前の今ごろは、自閉症の長男が小学校入学を控え、福祉情報の不足と不安の真っただ中におりました。乳幼児から入学前の子どものために、公的支援も私的保育園も様々な体制がありますが、小学校に入学したとたん状況は大きく変わり、当てにできるような支援体制がほとんどなく、保育園生活との大きなギャップがあると聞き、戸惑っておりました。

また、昨年春までの公的支援の決まりは、小学生の登下校は家族がすべき、と支援の対象外だったのです。共稼ぎの私たちにとって、それは送迎のために仕事を休むか辞めることを意味しました。

そんなとき、病院の相談室で「たすけ愛ふくろう」を紹介され、さっそく事務所を訪ね、会員登録をしたのでした。下校時の小学校から児童会館への送迎、そして児童会館スタッフが慣れるまでの見守りなどの支援をお願いしました。

入学後、他の児童とのトラブルや、下校時の問題行動、児童会館での混乱ぶりを度々聞き、その変化に悩むこともありました。

今では、もうじき4年生になる長男とふくろうの協力員さんとは、ずいぶん親しい関係にもさせていただき、頼りにしながら仕事に家事に専念するこの頃です。

協力会員の声

誰かの「うれしい」が、自分の「うれしい」に・・

清田区里塚　西村　宏子

私がふくろうに入会してから、丁度一年になります。子供達も独立し主人も定年退職し、あぁ～これが老後の始まりなのかしら…思い始めた頃、ふくろうと出会いました。

専業主婦！時間は沢山あるし、無理せず自分が出来ることだけなら、と気軽に登録しましたが、沢山の人生の先輩に出会えたことは、私にとって大切な経験でした。

失敗もありましたが、ご利用者さんの『ありがとう』『また、お願いね』の言葉を励みに、誰かの嬉しいが自分の嬉しいに繋がり、これからも自分が出来る『少しだけのお手伝い』を続けていきたいと思っています。

青　春

サムエル・ウルマン

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな肢体ではなく、たくましい意思、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは怯懦を退ける勇気、安易を振り捨てる冒険心を意味する。ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い、精神は芥になる。

六十歳であろうと十六歳であろうと人の胸には驚異に魅かれる心、おさな児のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。君にも吾にも見えざる駅逓が心にある。人から神から美・希望・喜悦・勇気・力の霊感を受ける限り君は若い。

霊感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ、悲歎の氷にとざされるとき、二十歳であろうと人は老いる。頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、八十歳であろうと人は青春にして已む。

NPO法人
設立記念
特別寄稿Ⅱ

安心して暮らせる 未来の地域社会を切り拓く

札幌学院大学経営学部
教授　河西　邦人

このたび、たすけ愛ふくろう清田がNPO法人として認証されたことをお慶び申し上げます。法人は社会の公器としての責任を明確にします。NPO法人認証後は、社会の公器としていっそうのご発展を心より祈念致しております。

さて、社会課題をビジネスで解決する。そんなビジネスをソーシャルビジネスと呼びます。皆様が活動しているたすけ愛ふくろうの事業は、今後、札幌市の各地域を支えるために必要不可欠なソーシャルビジネスの取組として、札幌市から「ふるさと雇用創出事業」の委託を受けて二〇〇九年に開始されました。私はその時の選考委員として、それ以来、おつきあいをさせていただいております。二〇〇九年から三年半、計画で示された計画で達成できたこと、十分達成できなかったこと。これまでの皆様のご苦労の歴史がソーシャルビジネスの難しさを示しています。

社会の課題は従来、行政が税金を原資として行政が中心になって解決するか、市民がボランティアで解決しました。今までとは異なり、社会課題をビジネスで解決することに対して誰かから対価を得るのは難しいのは自明の理です。その難しさをどう克服していくのか。それはソーシャルビジネスが市民で互いに支え合うビジネスという本質を大切にすることだと思います。具体的には対価を社会課題解決により恩恵を受けた当事者の市民からのみ徴収するのではなく、たすけ愛ふくろうの活動へ共感し、支持する市民から少しずつ資金や無償の労力を集め、当事者以外からの資金や労力で全体の事業に必要な経営資源をまかなう方法です。その一つに寄付があります。たすけ愛ふくろうの使命と事業内容からすれば、こうした寄付による資金集めは相性が良いのではないでしょうか。

平成二三年六月に特定非営利活動促進法の一部が改正され、新たな認定NPO法人の制度が始まり、寄付した人が税額控除、支払う税金の総額を変えずに認定NPO法人へ寄付することが可能になりました。こうした制度を活用するためには認定NPO法人にならないといけませんが、認定NPO法人になるための要件も緩和され、以前と比較して認定NPO法人になりやすくなりました。NPO法人化の次の段階として、今の事業活動を多くの市民に共感を持ってもらい、支持をしてもらい認定NPO法人になることを考えてはどうでしょうか。

皆様の小さな有償のたすけ愛事業の成功が、安心して暮らせる未来の地域社会を切り拓くと確信しています。これからのご活動に期待しています。

「住みなれた家で、
いつまでも…」を
少しだけ　お手伝い

日常生活支援事業
NPO法人 たすけ愛 ふくろう清田
札幌市清田区平岡８条３丁目１０-１４
☎011-889-2960（はやく ふくろうへ）

「たすけ愛ふくろう清田」は、より良い地域社会を創る
小さいけれど価値ある活動 です

事務局からのお知らせ

ご利用会員さまへ

ご利用のチケットには、有効期限があります。

※ たすけ愛チケットは、ご購入された月より２年間有効です。
チケットの裏面に、赤色で日付の押印があります。
たとえば、『27. 10. 31』と印字されているのは、
『平成 27 年 10 月 31 日』が有効期限ということです。

※ チケットの残りが少なくなりましたら、
早めにご連絡ください。
事務局からお届けにお伺いいたします。

協力会員の皆さまへ

≪チケット精算方法≫

① 月単位（月末）で、精算の集計をします。
② 原則、ゆうちょ銀行振込でお願いします。
（振込手数料が掛からないため）
③ チケットは「活動記録票」にとめずに、
揃えて、枚数の確認をお願いします。
右表のように確認メモを添えてください。
④ チケット・活動記録票等は、郵送（事務所宛）、
事務局スタッフ手渡し、会合時に提出、いず
れの方法でも結構です。
⑤ 受け取ってから１週間以内に振込みます。

チケット精算用確認メモ

平成　　年　　月　　日

会　員　No.	
氏　　名	
活動記録票	枚
30 分チケット	枚
交通チケット	枚

ゆうちょ銀行口座（すでに登録済みの方は記入不要）

記　　号	
番　　号	

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

編集後記

「ふくろう清田」が昨年四月から、市民団体として助け合い活動を継続して八ヶ月が経ちました。地域福祉の法人一年生として、ようやくスタートラインに立ちました。会員の皆さまにとって、より頼みやすく、お手伝いしやすい仕組み作りを、ご一緒に目指しましょう。（N）

NPO法人設立記念

地域ボランティア学習会

日時 ： 2月4日（月） 10:00 ～ 12:00
会場 ： 平岡地区会館（東光ストア平岡店東へ）
講師 ： 教授 杉岡 直人 北星学園大学社会福祉学部
「助け合いの今・昔」（仮題）
※ 同時に簡単な法人設立祝賀茶話会をもちます。